

# ふるさと奥尻通信

平成29年8月31日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

イワガキの旬は「牡蠣」だけに夏季です。それもプランクトンが多く発生する春に栄養を蓄えた、産卵前の初夏がベストのようです。自然界に季節があるように、動食物にも食用に適した時期があります。それが「旬」です。

## 特集 奥尻産イワガキの挑戦

これまで奥尻島周辺に天然のカキ類が生息していましたが、一般的に食用としては注目されていませんでした。その中からイワガキが食用に適し、養殖して商品化できる可能性が出てきました。平成23年頃の事です。

北海道総合研究機構栽培水産試験場(室蘭市)において、親貝から人工採苗してホタテの殻に稚貝を植え付けて育てる方法が考案され、奥尻では平成24年度から生産が開始されました。宮城県において天然採苗技術が確立されているマガキと違い、イワガキはその技術が無いため、稚貝から育てたものを親貝とし、再度受精卵をとることを繰り返す「完全養殖」を行っています。

養殖は、ひやま漁協青年部奥尻支部(16名中、4名が成養部会を結成)が担当し、赤石港内の筏(いかだ)3基と養殖桁(けた)1本にて実施されていますが、6年目の今夏は、年間3~4千個程度生産できるまでに成長しました。一般への販売も、平成27年の室津祭りを皮切りに、3年目を迎えてようやく安定した供給が実施できるところまで目途がついてきたところです。



奥尻産養殖イワガキ



ホタテのジャガイモ包み焼きケッカソース



ウニとアワビのイチゴタルタル



イワガキのガスパチョ風

8月の下旬、札幌の有名店のシェフ(イワガキ試食に係るサポーターシェフ)3名が来島し、島の食材を使って新メニューの試食と「高品質二枚貝養殖プロジェクト」を推進する北海道立総合研究機構中央水産試験場(余市町)の研究主幹によるイワガキ調理テストの結果報告が行われました。この日提供された島の食材は、イワガキ、キタムラサキウニ、クロアワビ、ホタテなどで、試食メニューは、「イワガキのガスパチョ風」、「ウニとアワビのイチゴタルタル」、「ホタテのジャガイモ包み焼きケッカソース」の3品でした。いずれも地元奥尻の調理法とは違う西洋料理で、非常に手の込んだものでした。参加した地元漁師や水産関係者は、食べられない味で多少の戸惑いがあったようですが、普段とは違う味覚を刺激されて大変興味深げ。



シェフの手にかかればあっという間に…

参加したシェフからは率直な意見が多数ありましたが、要約すると、「7月にサンプルで届いたカキは非常に良質で店で提供できる」、「今回使用したカキは旬を過ぎていて、7月のものより劣る」、「品質を保つことができれば、勝負できる」、「島内、道内にこだわらず築地に流通するような高品質なものを目指すべき」、「中央の市場で評価されると付加価値がつき評価が定まる」、「1個1万円、限定100個でも面白い」とのこと。

ホッケやイカが不漁続きで島の沿岸漁業が低迷し、安定的な収入が見込めない昨今、若手漁師の将来を左右するかもしれないイワガキ養殖の取り組みです。シェフの言葉に参加した若手漁師の目の色が変わり、表情も一段と引き締まったように感じられました。

奥尻特産のイワガキは名称が「カキまる」に決まりましたので、今後の展開が期待されています。



稚貝が付いたホタテ貝の殻を桁に結び付ける



昭和37年8月1日に高松宮宣仁親王が、有栖川宮威仁親王上陸80周年及び徳洋記念碑建設30周年記念式典に出席のため来島されたときの歓迎風景です。親王は、大正天皇の第三皇子であり、断絶した有栖川宮家を継承した家系であることが縁で徳洋記念碑の「洋々美德」の銅板を揮毫した方でもあります。この日は奥尻港に上陸後、陸路青苗に向かい、その沿道では町民が並んでお出迎えしました。写真は徳洋記念碑前の広場で宮様の到着を待つ青苗小学校の児童たちで、手には日の丸の旗と風船をもっています。傍らにはNHKの記者の姿も。



学芸員オスマの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

もういちど読む山川世界史  
「世界の歴史」編集委員会

日本史の大枠は世界史。日本の歴史は世界の歴史の一部である。世界の動きがあって日本の動きがある。また逆も然り。躍動する大国と、翻弄される小国。隆盛と滅亡、そして流浪する民。「大陸」で繰り広げられた数千年間の攻防。世界の歴史を鳥瞰することで、人類の歴史を学び、思考することが可能になる。そこから何を学びとするかは貴方次第。

月刊 奥尻のつり 8月号

通称ゴンタマグロと呼んでいる本マグロの幼魚が釣れ始めました。漁組に出せるのは10kg以上の個体のため、出荷できる物はほとんどありませんが、船釣りのレジャーとしては面白いものです。マグロが来るとブリがいなくなるそうで、本格的シーズンはまだ先ようです。また、去年は来ていた小魚たちの姿が見えません。港内にクサフグはたくさんいるのですが、アジやサバ、イワシなどの魚影は薄いままです。たまに群れが入ると大漁できるのですが、それがいつ来るのか判りませんので、浜の賑わいはありません。この手の小魚をエサにフクラギやソイを釣る作戦の人もいるので、11月までにエサ用を確保したいところです。夏のマイカ漁はさっぱりで、50箱獲れば大漁した方だということですから、昔の「千づけ」の時代が懐かしいことでしょう。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つし1ヶ月 第24回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より  
けた飯きえいこがたか何た磯と日はあ時をたる  
て話後いな雲で無がいで時。舟思釣紙中る々入。と朝七  
出な寝のか海二い、たか少下っ懸にに。烏ら昨、船月  
発のるをっに三の其。面ししたへ少入紙賊れ夕耳で二  
しで。とた出尾での或白波で。行しれをつてのが夜七  
た、起っ。て釣別磯岩くが、俺もって巻け取鳥聞そ七  
。早きた晝いっのでになあ沖のてつやいばれ賊え明日  
くた。まるた磯一つっるへ外医いって良なのなかへ月  
から歸での。に尾いての魚兄者てた棒くかたくし月  
ら青っんで久行もて沖で釣達に來がをこっめなて曜  
つ青苗で七、遠っ釣針へかり二見な、作んたにっ起日  
づ苗沖來八町のたっを沖ぶに三てい水っなん耳てき  
くにつて尾は方。た下へる行人賞。なて事だにいて  
向い、大見白そ者げと。っでう明ど耳が。水み

果客係係め度奥にがこびル  
た船長者て間尻変あの奥 | 八  
し寄ははのに港更り日尻ズ月  
て港鼻大こ二に、は島船二  
。は高喜と度上テ停青にの十  
九々びでの陸ン泊苗寄にの五  
月で、上しダ地沖港つ日  
二す役島陸ま | 点にしぼ、豪  
十。場の成しボを多まん丸華  
二次の観功た | 奥少し丸華  
日回担光は。ト尻のたがク  
、の当関初年で沖波。再

にっぽん丸再び寄港



青苗神輿保存会の皆さん

たてでてた域各 手 行区が地  
。盆は。の町神募恵わの、区八  
踊所八青祭内威集比れ澳十の月  
り々オ苗り会山中須ま津五言十三  
のでイでををー！山し神、代三  
輪歌ーは盛練のーした社十主、  
が謡を各りり巡がと。例六神十  
で曲歌家上歩行、神前大日社四日  
きにい々げいが後輿者祭に例日  
ま合、をまてあ者(でが奥大に  
しわ奥回し、りで担は執尻祭青  
せ尻つ 地、はぎ り地 苗

恵比須山・神威山盛大

も山こまサ雑あ早卓で肌過  
う「うせい誌つ矢球な寒ぎ短  
へをミンをたのさ五か今夏も  
と二 | での持のん輪今なねあ  
へ日ハしも参で、のメと年ねあ  
で引です。うた五卓ダ。はも  
たつす。念。がす集室ト六早朝  
た神けあが編が平日日夕間  
ら威つり、の 野にんはに

新茶之記録 (編集後記)

内どス練を。奥訓視索援用し訓  
容、キを。尻練船の物途た練八  
と非ユ。島中をー訓資支 が月  
なり常 | 消の学 か練輸援奥島三  
に救防空校函むを送艦尻内十一  
まり盛出署自生館い公とー港各日  
しり訓員が徒地 | 開海すで地、  
ただ練が炊に方が | 中おはで  
くをロき防気海海漂う海行町  
さす | 出災象上保流 | 自わの  
んるプし授台消の者がのれ防  
のなレ訓業が火巡捜救多ま災

防災意識を高めよう



JRA「奥尻特別」記念缶バッチ